

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女性, 20歳代)あり, 型別はO157(VT1・VT2)です。推定感染経路は不明ですが, 推定感染地域は国内です。本年の累積報告数は15例となっています。
- 風しんの報告が8例(男性3例(20歳代, 30歳代, 50歳代), 女性5例(20歳代2例, 30歳代1例, 50歳代1例, 70歳代1例))あります(第28週追加報告分3例含む)。本年の累積報告数は181例となっており, 風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降, 最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて, 約7倍となっています。全国の累積報告数も13,115例と平成24年(2,391例)と比べて, 約5.5倍となっています。
都道府県別では, 大阪府が最も多く, 次いで東京都, 神奈川県の順となっています。

平成25年 風しん 性別年齢群別累積報告数(京都市)

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
男性	2	3	39	37	32	6	2	121
女性	3	4	28	8	5	7	5	60
合計	5	7	67	45	37	13	7	181

- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は, 2.58(103例)で, 前週4.38(175例)から大幅に減少しましたが, 依然として過去5年平均値を上回っています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は, 3.15(126例)で, 第24週(6月10日～6月16日)以降, 6週連続で増加しており, 本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- 五類: 風しん(検査診断例7例, 臨床診断例1例) 8例【1月以降の累積報告数 181例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	3.15	126
	② ヘルパンギーナ	2.58	103
	③ 感染性胃腸炎	2.38	95
	④ 水痘	0.63	25
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55	22
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

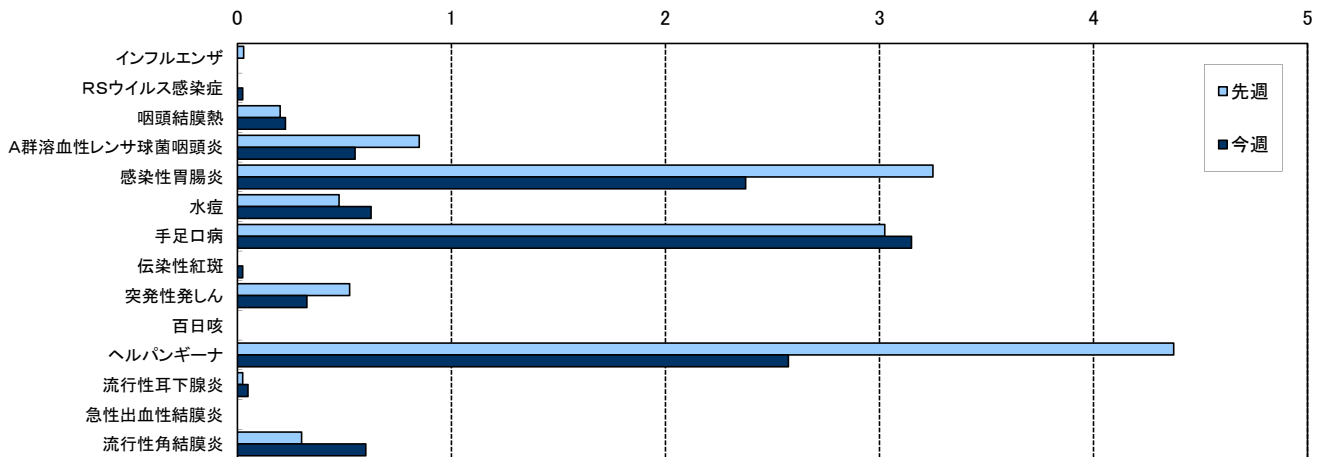
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

(注) 京都市のデータは, 平成25年7月25日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

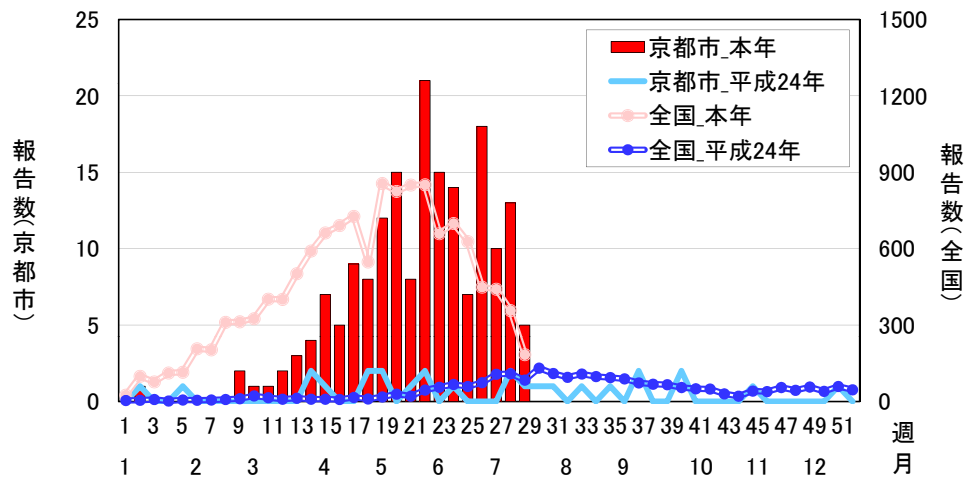
1 今週(第29週)と先週(第28週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

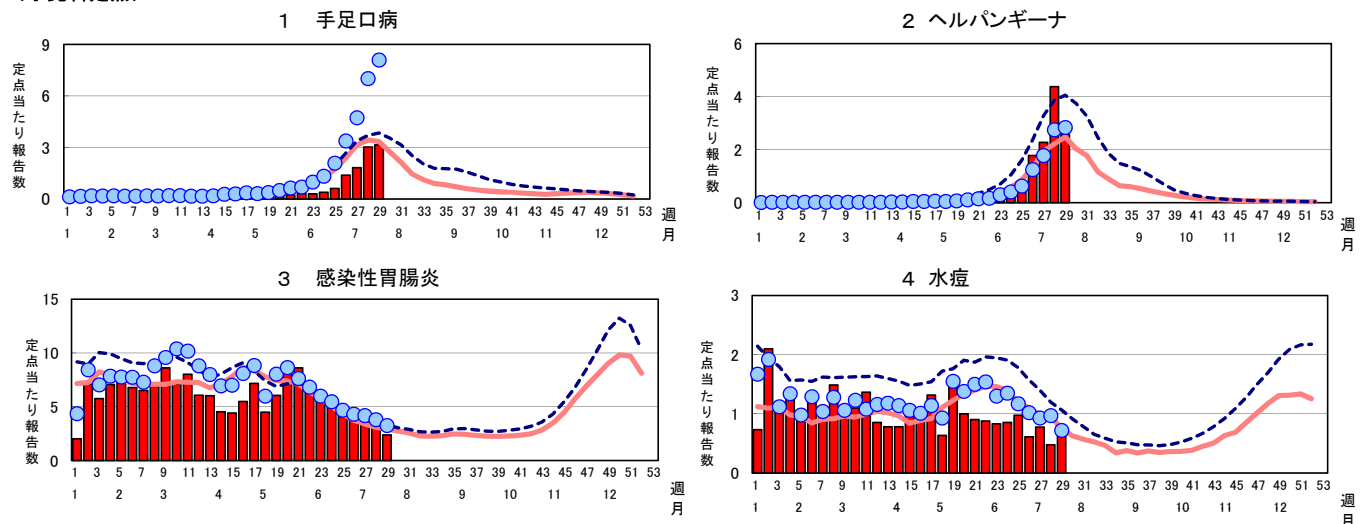
今週の報告数(累積報告数)
平成25年7月25日現在

京都市	5例 (181例)
京都府(京都市を除く)	0例 (95例)
近畿6府県	77例 (4847例)
全国	188例 (13115例)

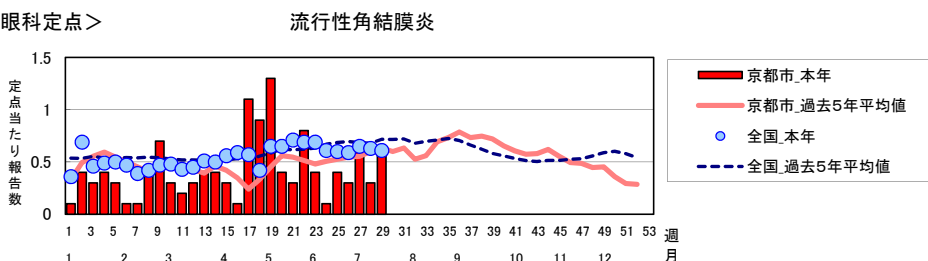


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



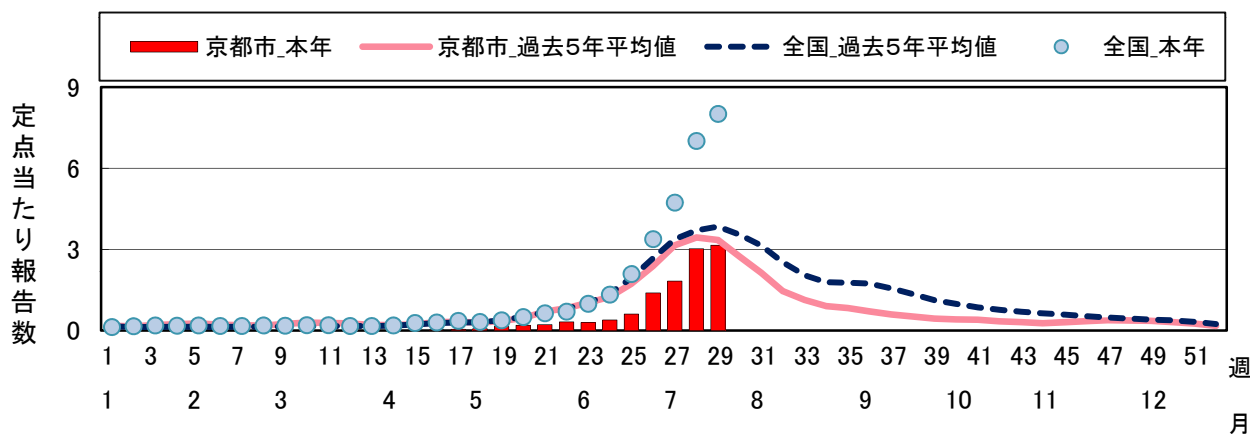
第29週(7月15日～7月21日)トピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、3.15(126例)で、第24週(6月10日～6月16日)以降、6週連続で増加しており、本年で最も多くなっています。全国の定点当たり報告数は8.09と前週7.01に比べ約1.2倍増加し、過去5年平均値を大きく上回っています。例年、7月から8月にかけてピークとなりますので、今後の動向にご注意ください。

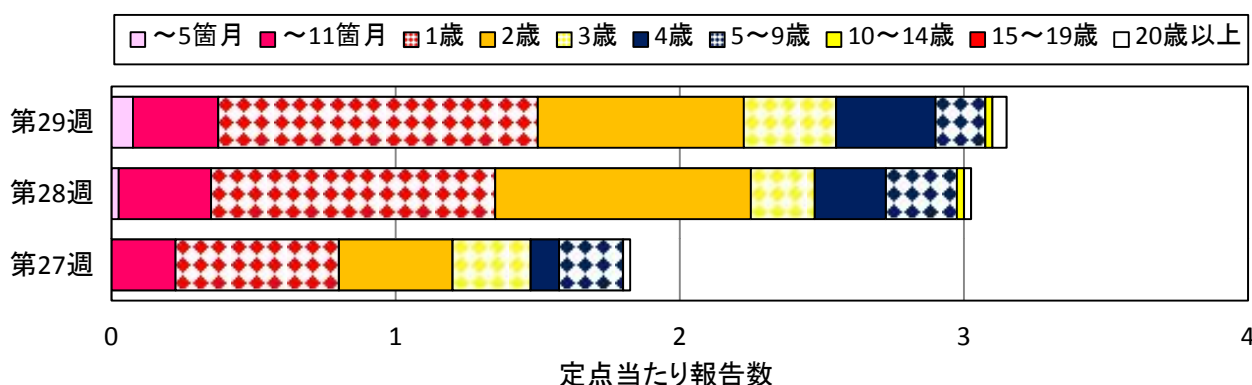
年齢階級別では、1歳が45例(35.7%)と最も多く、以下、2歳 29例(23.0%)、4歳 14例(11.1%)となっており、0歳～4歳で92.1%を占めています。

都道府県別では、34都道府県で前週より増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

